

飛騨高山クリーン作戦

高校生が海洋プラごみ対策

清掃活動にアプリ活用

県では、海洋プラスチックごみの海洋ごみ対策に内閣府として取り組むため、今年5月、ごみ拾いアプリ「ピリカ」を活用し、県内の清掃活動の状況や成果を見える化したウェブページ「クリーンアップぎふ 海



高山市内で清掃活動を行い、ごみを持ち帰る参加者

まで順次清流！と開成。また7月には岐阜・富山県知事懇談会において、両県が海洋ごみ対策に連携して取り組むことに合意した。その一環として、10月には富山湾へ注ぐ河川上流域にあたる高山市で「飛騨高山クリーン作戦」を実施した。ピリカは、拾ったごみを撮影して投稿するSNSサービス。当日は地元高校生108人を含む約200人が参加し、各自が行った清掃活動の様子をピリカで発信・共有した。ごみ回収場所である高山市役所には、昨年の約3倍となる45以上のごみ4袋分のごみが集められた。



クリーンアップぎふのホームページにアクセス

県リサイクル認定製品

148製品を認定



屋外施設で利用される廃プラスチック再生品の階段(タイボ-提供)

2007年、県は全国に先駆けて「岐阜県リサイクル認定製品」の認定及び利用の推進に関する条例」を制定し、循環資源を原材料の金銭または一割として製造・加工された製品を認定する「県リサイクル認定製品認定制度」を実施してきた。現在、認定製品は148品に上り、再生木材資材や古紙100%の紙製品などさまざまな製品がそろそろ。県

は、県内各企業に呼びかけ、認定製品の利用を推進したい」としている。飛騨高山市は医療用廃棄物をリサイクル（岐阜市）やタイボ-（輪之内町）は公園の手すりや階段などで使用される製品を廃プラスチック再生品として手がけており、食品容器以外での活用も進む。県は「プラスチック資源循環法」に定める「プラスチック製品の利用を推進したい」としている。